

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	木の実教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子保育を行っていることで、共に作り上げる関係をもたせた保育を行っています。子どもの成長を保護者とリアルタイムに感じられるところがあり、共感関係が生まれ、信頼関係を深められています。	常に、子どもを中心に据え、子どもの興味はどこにあるか、共通する遊びなど、提供する教材や遊びなどを保育前や保育後の打ち合わせ・振り返りを行い、子どもに合わせたものを提供するようにしている。	安定した保育技術に加え、新しく紙芝居やお話しを導入することで、保育教材を一新させながら、保育内容を活性化させている。
2	法人内に、公認心理士が常駐配置されており、必要となれば、発達相談を行い、相談や悩みに適切なアドバイスを提供できる環境です。進路選定などの指針をサポートしています。	心理担当者（発達相談員）には、保育士の職員会議（支援者会議）への参加を求め、子どもの様子を共有、実際の保育場面でも様子を見ていただくようにしている。発達や進路の学習会においては、講師として情報を提供し、その上で保護者との関係をも深める努力を行っています。	個別の面談の機会を、増やしていく工夫を検討。
3	地域保健師との連携関係ができています。	療育の入り口として、随時受け入れを行っています。その点で、地域保健師との関係性は高く、療育への紹介がされる他、地域保育所や幼稚園の並行利用児の情報の共有、進路選択の際にも、連携して適切なサポートがとれる関係をもっています。	信頼関係を維持することで、連携を継続させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の特性として、毎月々々新入児を受け入れているため、年度初めから徐々に利用児が増えていく形がある。	年度当初からの利用児と、年度途中から入所した利用児、とくに秋以降入所した利用児との経験差が常に生じる傾向にあり、落ちついた保育を目指しているが、安定性には波がある。	年齢や経験など、子どもの様子を見ながら、月毎にグループ分けを見直し行っている。また、これらの事業所の特性を保護者にはご理解いただく工夫は必要と考えている。
2	事業所の特性として、毎月々々新入児を受け入れているため、年度初めから徐々に利用児が増えていく形がある。地域の幼稚園や保育園の併用児も多く、その為、保護者との信頼関係も、徐々につくれ差違のある傾向がある。	定期的に行われる交流会や学習会の機会にも、開催日の都合がつかず、出席に至らない保護者もあり、関係性をつくるには難しさがある。	開催日の曜日を固定化しないよう工夫して、交流会や学習会を開くようにしている。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 木の実教室

公表日 2025年 12月 12日

利用児童数 20

回収数 14

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	0	1	0	木の実教室は、少し狭いと思うときがある。 人数が多いときなど、すぐにそばにいけなかったり、子どもどうしぶつかりそう。 部屋だけでなく外の活動もたくさん取り入れてくれて嬉しい。	現在、新しい園舎を設計中。26年度には新しい園舎が完成し、狭さを感じさせない空間を提供できていると思っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14	0	0	0	いつも3、4人の先生がいるので安心する。	法で決められた職員配置を遵守しています。複数の目で子どもたちを見守り、安心安全を目指しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1	0	0		子どもたちの意識が他に向かないよう、必要以外のものは、目につかないように、置かないようにしています。 お借りしている駐車場については、広さの問題や整地など、課題があります。現状をより安心安全な状態にもっていきたいと、考えます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	0		毎回、保育後は清掃をしています。異食する子どもさんもおおり、拾い食いなどせぬよう、小さなゴミも落ちていないようにしています。子どもも大人も楽しく過ごせる気持ちのいい空間を提供するよう、務めています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	0	0	1	手遊びやお話しも子どもが理解しやすいように考えてくれているので、興味をもって楽しんでいます。	長年の経験を含め、適切な保育技術をチームで提供しています。子どもの様子を理解し、その成長を互いに喜び合える、どの子にも分け隔てなく、愛しさを感じながら関わることができる職員集団です
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	1	0	0		開設以来の保育デイリーの形を、支援プログラムとして表しています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0	“言葉の根っこを膨らませる”という言葉聞いて、焦らず頑張ろうという気持ちにさせてもらっています。	個別支援計画の作成にあたっては、子どもの様子、保護者のニーズや課題を理解した上で、作成するよう意識しています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	0	0	0		児童発達支援ガイドラインに示された子どもの支援の意義を考慮し、本人支援、家族支援、移行支援それぞれの支援を行っています。保護者の学習の機会や交流会では、保護者の理解、保護者同士の仲間意識を育み、相談や悩みを共有、また移行にあっての意識づくりを促します。子どもにとっての適切な進路選択をサポートしています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		開設以来の保育デイリーの形を、5領域を含めた支援プログラムに照らして表し、それを基に児童発達支援計画（個別支援計画）を作成しています。子どもそれぞれに差はありますが、基本は同じ道を歩んでいくと考えています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	0	0	1		年間を通じて、こよみ行事や四季の移り変わりを感ぜられるような活動を行っています。製作では、内容が重ならないようにしたり工夫を加えています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	3	7		地域の保育園や幼稚園との交流は特に行っていません。法人内の他事業所との交流は行っております。インクルージョンの視点からの交流は、今後の課題と考えています。

保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0	重要事項説明書・契約書・支援プログラムなどの書類を提示して、説明を行っています。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	0	改定された児童発達支援計画（個別支援計画）の様式では、保護者の理解を得るには、より分かりやすい説明が必要と感じています。5 領域、支援プログラムを含めた説明が必要と考えています。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	0	0	1	法人に常駐している心理担当者（発達相談員）が講師として、発達や進路についての学習会を行っています。また、交流会に参加したり、日頃の保育にも同席して、気軽に悩みや相談ができる機会や環境をつくっています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14	0	0	0	基本親子保育なので、子どもが遊んでいる間に、保護者と会話する機会をもてています。子どもの様子をリアルタイムに共感することができ、またお家での様子を聞くこともできるなど、子どもの理解に努めています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1	0	2	相談については、もう少し話しやすい状況をつくるようにします。またこちらからも気づけるように、気配りが必要と感じました。面談は、必要性、緊急性を優先していましたが、定期的に行うことも計画していきたいと考えます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0	長年の経験を含め、適切な保育技術をチームで提供しています。子どもの様子を理解し、その成長を互いに喜び合える、どの子にも分け隔てなく、愛しさを感じながら関わることができる職員集団です	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	1	0	3	きょうだいの支援はわからない。保育所選びの前に色んなお話しが聞けて良かった。体験談を聞ける機会があった。色々考えることができました。	保護者学習会や交流会を定期的に開催し、保護者同士の交流の場を提供しています。きょうだいに関しては、保育に同席して参加してもらう形はある場合もありますが、きょうだい向けに特化したイベントは、開催しておりません。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	2	苦情相談窓口については、担当者を決めており、周知するためのポスターを掲示しています。また、そこまで至らない相談や申し入れに関しても、常勤職員が常駐しており、直ぐに判断、管理者への報告・連絡する体制を整備しています。迅速な対応に努めています。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	0	0	0	保育中の話しことばやことばかけに際して、子どもを怖がらせたり、保護者に不愉快な思いをさせるようなことばを使用しない、自然体な職員集団です。愛おしさをもって接しています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	1	0	3	月1回のお便りを通じて、行事の予定をお知らせしています。事業所の活動を法人通信『ももさと通信』でも紹介しています。また、この事業所評価結果も、ホームページで公表する予定です。	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1	0	0	個人情報に関しては、特に留意しています。写真の掲載については、特に了承を得るようにしています。		
非常時等	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	3	0	4	地震訓練があった。	常に、新規入園児が入ってくる事業所の特性上、各種マニュアルの周知・説明は、時間的にむずかしい状況です。簡便なわかりやすいものを作成するよう検討していきます。各種の定期的な訓練の実施を計画していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	0	3	親子教室という事業所の特性では、子どもの安心安全を保護者に委ねている点、強みであり、弱点であると考えます。人数が多いのも逃げる場面では、欠点になり得て、訓練での課題となっています。	

の 対 応	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	0	0	1	親子教室という事業所の特性では、子どもの安心安全を保護者に委ねている点が、強みであり、弱点でもあると考えます。思わぬところに安心安全が崩れる場面があり、その点を想定して、お声かけさせていただいています。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1	0	2	保育中は、子どもたちから目を離さないよう注視していますが、その瞬間を見逃す場合もあります。前後の動きなどからの報告をする際にも、保育中の出来事として、真摯に対応させていただきます。	
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	13	0	0	1	(場所に)慣れるのに時間はかかるが、だんだんと本人も楽しめていると思う。分離の時も、楽しい時間を過ごしている様子です。家でも友だちの名前を言うようになりました。	子どもたちに「たのしい」と思ってもらえるような保育を目指しています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	0	0	2	最近では、お友だちと言って、なんとなくのわかってきている。通所も楽しみにしているが、家でも体験した事を嬉しそうに表現しています。	子どもたちに「またきたい」と思ってもらえるような保育を目指しています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0	良い先生たちばかりで、親子で安心して通えています。遊びを通して、たくさんの経験をさせてもらっています。ありがとうございます	事業所の支援に満足、という評価に感謝致し、この信用信頼を裏切らないよう、日々務めます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 わんぱく教室（木の実教室 土曜保育）

公表日 2025年 12月 22日

利用児童数 15

回収数 8

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	1	0	0	人数が増えてきて、狭く感じることも増えました（室内）。	現在、新しい園舎を設計中。26年度には新しい園舎が完成し、狭さを感じさせない空間を提供できると考えています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	1	0	0		法で決められた職員配置を遵守しています。複数の目で子どもたちを見守り、安心安全を目指しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	2	0	0		子どもたちの意識が他に向かないよう、必要以外のものは、目につかないように、置かないようにしています。お借りしている駐車場については、広さの問題や整地など、課題があります。現状をより安心安全な状態にもっていきたいと、考えます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	1	0	0		毎回、保育後は清掃をしています。異食する子どもさんもあり、拾い食いなどせぬよう、小さなゴミも落ちていないようにしています。子どもも大人も楽しく過ごせる気持ちのいい空間を提供するよう、務めています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	3	1	0		長年の経験を含め、適切な保育技術をチームで提供しています。子どもの様子を理解し、その成長を互いに喜び合える、どの子にも分け隔てなく、愛しさを感じながら関わることができる職員集団です
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	1	0	1		開設以来の保育デイリーの形を、支援プログラムとして表しています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1	1	0		個別支援計画の作成にあたっては、子どもの様子、保護者のニーズや課題を理解した上で、作成するよう意識しています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1	1	0		児童発達支援ガイドラインに示された子どもの支援の意義を考慮し、本人支援、家族支援、移行支援それぞれの支援を行っています。保護者の学習の機会や交流会では、保護者の理解、保護者同士の仲間意識を育み、相談や悩みを共有、また移行にあつての意識づくりを促します。子どもにとっての適切な進路選択をサポートしています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	1	1	2	月2回では、沿っているか判断できない。	開設以来の保育デイリーの形を、5領域を含めた支援プログラムに照らして表し、それを基に児童発達支援計画（個別支援計画）を作成しています。子どもそれぞれに差違はありますが、基本は同じ道を歩んでいくと考えています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	0	毎回工夫されていて、子どもも楽しんでいます。	年間を通じて、こよみ行事や四季の移り変わりを感じられるような活動を行っています。製作では、内容が重ならないようにしたり工夫を加えています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	0	1	1	園とは違うお友だちに会えることを楽しみに通っています。	直接地域の保育園や幼稚園との交流は特に行っていませんが、そこに通う子どもたちが土曜日に通っている教室です。地域間交流にもなっていると考えています。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		重要事項説明書・契約書・支援プログラムなどの書類を提示して、説明を行っています。	

保護者への説明等	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	1	0	0	改定された児童発達支援計画（個別支援計画）の様式では、保護者の理解を得るには、より分かりやすい説明が必要と感じています。5 領域、支援プログラムを含めた説明が必要と考えています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	0	1	1	交流会ととも助かっています。法人に常駐している心理担当者（発達相談員）が講師として、発達や進路についての学習会を行っています。また、交流会に参加したり、日頃の保育にも同席して、気軽に悩みや相談ができる機会や環境をつくっています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5	2	1	0	基本親子保育なので、子どもが遊んでいる間に、保護者と会話する機会をもてています。子どもの様子をリアルタイムに共感することができ、またお家での様子を聞くこともできるなど、子どもの理解に努めています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	2	1	1	相談については、もう少し話しやすい状況をつくるようにします。またこちらからも気づけるように、気配りが必要と感じます。面談は、必要性、緊急性を優先していましたが、定期的に行うことも計画していきたいと考えます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	0	1	0	長年の経験を含め、適切な保育技術をチームで提供しています。子どもの様子を理解し、その成長を互いに喜び合える、どの子にも分け隔てなく、愛しさを感じながら関わることができる職員集団です
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	0	0	1	もう少しあってもいいかな、と思います。 桃郷まつり、楽しみにしています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	0	2	苦情相談窓口については、担当者を決めており、周知するためのポスターを掲示しています。また、そこまで至らない相談や申入れに関しても、常勤職員が常駐しており、直ぐに判断、管理者への報告・連絡する体制を整備しています。迅速な対応に努めています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	0	1	0	保育中の話しことばやことばかけに際して、子どもを怖がらせたり、保護者に不愉快な思いをさせるようなことばを使用しない、自然体な職員集団です。愛おしさをもって接しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6	0	0	2	期毎のお知らせやGmailを通じて、行事の予定をお知らせしています。事業所の活動を法人通信『ももさと通信』でも紹介しています。また、この事業所評価結果は、ホームページで公表する予定です。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	0	個人情報に関しては、特に留意していません。活動記録用に写真撮影しますが、写真の掲載については、あらかじめ了承を得るようにしています。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	0	1	常に、新規入園児が入ってくる事業所の特性上、各種マニュアルの周知・説明は、時間的にむずかしい状況です。簡便なわかりやすいものを作成するよう検討していきます。各種の定期的な訓練の実施を計画していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	0	0	0	毎年1回、消防署職員をお招きして、避難訓練、防火体験、消防車見学など、行って、防災意識を育んでいます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	1	0	0	親子教室という事業所の特性では、子どもの安心安全を保護者に委ねている点、強みであり、弱点でもあると考えます。思わぬところに安心安全が崩れる場面があり、その点を想定して、お声かけさせていただいています。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	0	0	2	まだ経験ないです。	保育中は、子どもたちから目を離さないよう注視していますが、その瞬間を見逃す場合もあります。前後の動きなどからの報告をする際にも、保育中の出来事として、真摯に対応させていただきます。
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	7	1	0	0		子どもたちに「たのしい」と思ってもらえるような保育を目指しています。
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	4	4	0	0		子どもたちに「またきたい」と思ってもらえるような保育を目指しています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6	1	1	0		事業所の支援に満足、という評価に感謝致し、この信用信頼を裏切らないよう日々務めます。また「満足に至らない」というご意見もあり、ご期待に添えるよう努力していきたいと思ひます。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	木の実教室				公表日	2025年 12月 22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	大人数の利用が見込まれる保育日は、公共の施設（体育館や公園など）を利用するなど、キャパシティを考慮している。	施設の老朽化もあり、新築舎の建設を設計中。次年度には建設予定。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	法定基準配置を遵守。	毎回、一定の人数の利用ではなく、増減がある中、また子どもの様子にも差違があるなか、配置に工夫している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	不必要なものは、子どもの手の届く場所に置かないようにしています。興味をそそるようなものを視界に置かないようにしています。	子ども目線を忘れないように留意しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	保育前は、環境の確認、保育終了後は、保育士全員で、清掃を行っています。	子どもはもちろん、保護者にも清潔な印象を与える環境に、職員自身も働きやすい職場を目指しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	別室の確保は、難しい面があるが、場面として、集団から少し離れることも、子どもの意思として尊重しています。	その為の別室は設けられていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	保育後の反省会を毎回、月1回は職員会議（支援者会議）、年3回の総括会議を行って、目標設定と振り返りを行っています。	パート職員を含めた職員全員が揃う日が少なく、職員会議日の選定が難しい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回の事業所を評価していただく機会を設け、保護者等の意向を図り、改善点を見つけ、改善に向けて取り組んでいます。	事業所への辛評価に、保護者からの意見(主訴)が隠れている場合がある。そのことばを見逃さないよう意識しています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回の事業所を評価する機会を設け、従業者等の意見を募り、改善点を見つけ、その改善に向けて取り組んでいます。	評価表だけでなく、日頃から職員間での意見交換を行っており、よりよい状況を生み出す努力を行っています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	法定の云う第三者の外部評価は行っていないが、外部アドバイザーによる保育の評価を受け、保育の改善を実践している。	外部アドバイザー（ベテラン保育士）による保育アドバイスには、得るものがたくさんあり、今後も導入を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	法人及び事業所にて、研修の機会を設け、研修を受けている。	職員全員が揃って受講することは難しいので、伝達研修やビデオ研修などの形をとることが多い。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	支援プログラムを作成、ホームページで公表。	保護者のみなさんに、わかりやすい内容になっているかどうか。ホームページでの公表が保護者に周知されているか。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	保護者のニーズ（主訴）、子どもの様子から課題を見つけ、最適な支援を行っていくために、作成しています。	事業所の特性上、毎月々々入園児を迎える状況のなか、作成するための時間がとりにくい状況です。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	職員会議（支援者会議）では、子どもの様子を聞き取り、課題や今後の取り組みを全員で共有、把握している。	事業所の特性上、毎月々々入園児を迎える状況のなか、作成するための時間がとりにくい状況です。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	課題点、支援の方法など、職員間で確認している。	子ども一人ひとりにおける個々の課題と集団活動の立案をどのように両立させていくか、が難しいところ。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	法人常駐の発達相談員による発達相談など、フォーマルな検査評価なども参考に、日々の様子を確認しています。	子どもの様子（成長）は、日々変化しているので、個人記録をとって、把握するようにしている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	事業所開設以来、児童発達支援ガイドラインが示される以前から、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域支援」がセットで支援の形として行っています。	「地域支援・地域連携」の取り組みには、課題があると感じています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	日々、顔を合わせては、子どもたちの「たのしい」ことを探っています。	子どもたち、一人ひとりの様子と集団活動にどのように近づけるかが課題です。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	季節行事などでは、毎年々々同じようなことをしているようだが、内容に変化をつけている。	同じ子どもは誰一人なく、その年のグループに合わせて、活動内容に変化をつけている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	個々の課題は、個々の課題であり、また集団のなかで成長がみられると考えます。相互を重ねて支援しています。	子どもたち一人ひとりの様子、課題とグループ編成、集団活動にどのように近づけるかが課題です。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	どの日の活動も、チームで、それぞれ役割を持つなかで行われています。毎回、打合せを行った上で、支援しています。	限られた時間内で、どれほどの打合せができるかが、課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	毎回、チームで反省会を行い、振り返り、記録帳など行っています。	保育チーム以外の職員が入る機会があれば、より厚みがでる反省会になると考える。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	毎回、チームで反省会を行い、振り返り、記録帳など行っています。	限られた時間内で、どれほどの記録がとれるかが、課題です。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	半年後の見直しを行うようにしています。(※都度々々見直しするような計画書は、適切ではないように思われます。)	事業所の特性上、毎月々々入園児を迎える状況のなか、見直しするための時期を判断しにくい状況です。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	そのような機会があれば、よく理解している職員を参画させます。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	長年における法人の実績により、地域の関係機関との連携関係が構築されています。	医療との関係は、保護者を通して。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	並行利用されている子どもさんの状況に合わせて、木の実教室に通いやすいよう曜日の設定など、配慮を行っています。一人ひとりに、移行に向けた準備なども考慮しています。	地域の保育所・幼稚園との直接の情報共有は行っていませんが、必要となれば保健師を通じたり、保育所等訪問事業職員と連携関係にあります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	5		基本を1歳児・2歳児を対象とした事業なので、就学移行児はいません。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	0	法人の地域圏内には、児童発達支援センターが2事業所あり、いつでもスーパーバイズや助言をいただける機会がある。	児童発達支援センターに、専任のスーパーバイザーが配置されることが理想。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		現在、その機会はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	基本を、親子保育で行っているため、子どもの様子をリアルタイムで共有出来る状況である。	伝え合う丁寧な時間は、なかなか取れていないと感じる。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	心理担当者(発達相談員)を講師に、発達や進路の学習会や交流会の機会を持っている。	毎月々々入園児を迎える状況のなか、同じ内容のものを、全員に与える機会はないのが課題である。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	入園時には、運営規程、利用者負担等について説明を行っています。	今年度、支援プログラムは10月に公表。後付けとなった。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	子どもや保護者の意思、意向を聞き取り、アセスメントシートを作成。	体験時や入園時での聞き取り時間を増やすことが課題。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	説明をして、同意の署名をいただいています。	今年度改訂された、児童発達支援計画（個別支援計画）書は、様式が難しくなり、説明をわかりやすくする工夫が必要。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	職員が声かけをして、生活面や子育ての悩みなどを聞き取る機会をつくっている。	これまで緊急性を優先した面談の形を行ってきたが、定期的な面談の開催ルールが必要と感じる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	保護者交流会を開き、交流の場を設けています。	現在、きょうだい交流の場は、設けていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	保育チームには常勤職員を配置し、いつでも相談や申し入れに対し、判断、真摯に向き合える体制を取っている。	常に、報・連・相に留意。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	毎月1回お便りを発行、行事予定をお知らせしています。	木の実教室単独のHPやSNSは現在行っていません。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	留意しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	すべての人にわかりやすい言葉・文章で伝える努力をしています。	こちらの思いが、一方通行になってしまわないかが課題。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	クリスマス会では、地域の方にサンタ役をお願いしています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアルの作成を行い、訓練を行っています。	簡便で分かりやすいマニュアルが必要と感じる。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPの策定を行い、防災グッズなどを備蓄しています。訓練を行っています。	防災グッズなどの備蓄、整備が充分ではないと考えています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	0	5	入園時のカンファレンスで、把握に努めている。	都度々々の健康管理は、保護者からの報告に任せているので、事業所発信としては行っていない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	5	食物アレルギーについて、アセスメントしている。	保護者からの報告のみ。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	0	5		安全計画を策定しているが、実施に課題。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	0	5		安全計画を策定しているが、実施に課題。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハット事例があれば、共有するようにし、再発させないように努めます。	想定しうるトラブルを、常に発生させないようにアンテナを張ることが、課題。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止研修を毎年受講しています。	伝達研修やビデオ研修で受講の職員もあり、全員での受講を理想としています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	0	5	基本的に親子保育であり、保護者の同伴状況で、事業所側の身体的拘束の状況が生じません。	この事業所の特性のなかでも生じる「身体拘束」をどのように捉えるか、が課題です。	